環境情報啓発センターでの公益活動の取り組み

公益活動推進センター　**大城戸　博文**

要　旨

本報では、公益活動推進センター内の環境情報啓発センターが実施した公益活動を報告する。環境情報啓発センターは、「まもるーむ福岡」の運営業務や3R・低炭素社会検定業務を行っており、令和元年度は、昆虫観察会などの新たな活動にも取り組んだ。本センターでは、子ども達や一般市民へ環境学習の場を提供することで、この地球を「未来につなぐ」役割を果たしていきたいと考えている。

１．はじめに

当協会の公益活動について、具体的にどのような活動をしているのか、詳しく知る方は少ないと感じる。そこで本報告では、公益活動を主に担っている公益活動推進センター、特に環境情報啓発センター（以下、本センター）での活動について紹介する。

２．当協会における公益活動の位置づけ

当協会における公益活動は、「2. 環境保全と科学情報に関する普及啓発を積極的に行い、社会及び地域への公益活動を推進します」と、環境経営方針の中で示され、当協会が社会に対し貢献すべき活動の重要な柱の 1 つとして位置づけられている。

当協会は、「地球を知り、未来につなぐ」とスローガンを掲げている。「地球を知り」は、主な収益業務である調査、分析、「未来につなぐ」は、子ども達に環境学習の場を提供する公益活動にあたる。当協会にとって、収益業務、公益活動は、車の両輪のようにどちらも重要なものとなっている。

３．環境情報啓発センターの公益活動

当協会ホームページで公開されている平成 30 年度環境経営レポートをみると、本センターの事業について「（前略）当協会の公益活動として、次世代を担う子供たちやその保護者、企業で働く方々へ環境学習の場を提供する（後略）」と記されている。具体的に、本センターは福岡市保健環境学習室「まもるーむ福岡」（以下、まもるーむ）の運営業務のほか、小学生を対象とした科学実験、自然観察会、環境に関する講師派遣などの公益活動を主に担っている。

令和元（平成 31、2019）年度（以下、本年度）に行った、本センターの主な公益活動を以下に示した。本年度は、昆虫観察会や科学わくわく出前授業などの新たな活動にも取り組んだ 1 年であった。これらの活動以外に、九環協オープンデー「夏休み・子ども科学実験講座」も開催したが、本号別項に詳細をまとめているので、そちらを参照いただきたい。

３．１　まもるーむ運営業務

本業務は、福岡市からの委託により、まもるーむの企画・管理・運営を行うものである。当協会が受注する業務で、地方公共団体が管轄する施設の運営を任されるものは他になく、環境・科学、生物、保健衛生に関する普及啓発や環境関連団体の活動支援の一端を担っている点が特徴となっている。業務内容には、施設の維持管理、講座・イベントの企画・実施、環境保全団体（NPO）の交流・活動支援、情報発信がある。

本年度は、福岡市科学館やマリンワールド海の中道、九州大学学生任意団体との連携講座の企画・運営、環境関連団体による活動発表の場の提供のほか、普及啓発の一環としての講座・イベント開催（50 回以上）、展示パネル更新（4 回）を行った。講座・イベント時に実施し

たアンケート結果では、5 段階評価のうち最高評価が 9 割以上であった。この結果は、普及啓発の一環である講座・イベントが、来館者から好評を得ていることを示している。

図 1 まもるーむ運営業務　昆虫標本づくり講座の様子

３．２　3R・低炭素社会検定業務

本業務は、(一社)持続可能環境センターからの依頼で講習会の開催、検定試験の運営を行うものである。これは、地球環境問題に取り組む方々の活動支援という形での公益活動である。

全国 8 地区のうち、九州地区における運営を任され、業務内容は、福岡大学の鈴木慎也准教授による講習会の開催、例年 11 月上旬に行われる検定試験の運営およびこれらに関する調整・手続き、周知であった。試験は、公平・公正となるよう細心の注意を払い実施した。

3R、低炭素社会の両部門とも、本年度の全国の検定受験者数、合格者数は、前年度に比べて増加した。SDGs、パリ協定、ESG 投資[1]と、「持続可能な社会」に向けて国際社会が大きく舵を切る中、今後も受験者が増えるよう継続して活動することで社会貢献していきたいと考えている。

図 2 3R・低炭素社会検定業務　講習会の様子

３．３　古賀市における昆虫観察会

古賀市での昆虫観察会は、「古賀市環境市民会議（通称ぐりんぐりん古賀）」からの依頼で講師を務めたものである。古賀市環境市民会議は、環境保全活動に携わる個人・団体が連携・協力し、環境保全活動を効果的、効率的に推進することを目的として生物調査、環境教育、観察会を開催している団体である。

本センターとして初めて実施した観察会は、古賀市の小学生 30 名を対象として、古賀グリーンパークで行った。観察会では、当協会環境部職員（大串）とともに、昆虫の採集方法や生態、昆虫と環境の関わりについて解説しつつ、参加者と楽しく昆虫採集を行った。

観察会は、古賀市の生物を記録する調査も兼ねたものであったため、参加者には、パーク内を踏査しながら昆虫をなるべく多く採集してもらい、それら全種を記録・報告していただいた。その結果、45 種が報告された。なお、環境へ配慮して、採集した昆虫は、一部の種を除き、全てパーク内へ戻した。

生物に興味を持ってもらい、環境や保全活動の大切さを分かってもらうためのこのような活動は、生物多様性が急速に失われている昨今、地道であるがとても重要であることを再認識した。

[1] ESG は、環境（Environment）・社会（Social）・企業統治（Governance）を指し、これらに配慮する企業に対して行う投資のこと。企業の長期的な成長にこれら 3 つの観点が必要という考え方で、株主となる機関投資家で急速に広まっている。

図 3 古賀市昆虫観察会　昆虫採集の様子

図 4 科学わくわく出前授業　授業の様子

３．４　科学わくわく出前授業

科学わくわく出前授業は、福岡市教育委員会からの依頼で、福岡市立舞鶴中学校で筆者が講師を務めたものである。DNA について学習し始めたという中学 3 年生 78 名（39 名×2 組）に対し、「遺伝子を扱う技術について調べよう」というタイトルで、環境 DNA の利活用法や、環境保全への DNA 技術の応用について説明した。授業の中で、ブロッコリーから抽出した DNA を見せると、中学生の多くは驚き、DNA について実感をもてたようであった。

授業内容については、舞鶴中学校の担当の先生と事前に打合せを行い、中学生が理解しづらいところを分かりやすい表現、内容にし、興味を引きそうな内容は解説を増やした。また、DNA に関する説明内容に誤りがないか、当協会で DNA 分析を専門としている環境部職員（大井）に事前に確認した。

本センターでは、小学生を対象とした講座・イベントが多い一方、中学生を対象とした普及啓発は少ない。中学生が理解しやすい表現、興味を引く内容が学べた点において、今回の授業は中学生を対象とした公益活動を行う際のよい経験となった。

４．今後の活動について　～あとがきにかえて～

本センターでは、SNS や動画によるまもるーむの施設紹介、著名な専門家による最新研究に関する講座の開催など、新しい情報発信の取り組みやコンテンツの提供を今後予定している。参加される方に対し常に驚きと知的満足感を提供しながら、施設運営、講座・イベントの公益活動を今後も継続していきたいと考えている。

本センターでは、当協会の専門職員の協力を得ながら、子ども達や一般市民へ環境学習の場を提供することで、この地球を「未来につなぐ」役割を果たしていきたいと考えている。